

2016年(平成28年)9月23日(金曜日)

今日の話題



江戸時代末期、留萌管内増毛町別荘と石狩市浜益区幌の間を結ぶために開削された生活・交易路「増毛山道」の完全復元が近づいている。

NPO法人増毛山道の会と石狩市職員による復元作業が進み、10月中の開通にメドがたった。

全長27キロのうち、残るは最奥部分1・5キロ。標高850メートルを超える増毛山道

高所でのササ刈り作業は容易ではない。「歴史遺産を復活させたい」という強い思いが心の支えだ。

山道は、増毛周辺の漁場を経営していた豪商伊達林右衛門が箱館奉行所の命で、今の1億7千万円に当たる私財を投じ開削。1857年(安政4年)に開通させた。部分的には戦後まで使われたが、海岸線沿いに国道231号が

開通してからは人の行き来が途絶え、地形図上からも消えた。

留萌市の測量会社経営、小杉忠利さん(75)が中心となって2007年に始まった取り組みは、足かけ10年になる。08年には増毛山道の会が設立され、事務局長として復元に意欲を燃やしてきた。

古い地図や航空写真を元に山道のルートを特定。現場で人馬が歩いた痕跡を見つけた。出し、高さ3メートルを超えるササを刈る地道な作業の繰り返しだった。

「問題は山道復元後、どう維持していくかということ」。小杉さんほこう話す。人が往来しなければ、山道は再びササに埋もれてしまう。ササの密生スピードは想像以上に速い。地域の貴重な歴史遺産だ。人が行き来できるよう、いい形で後世に残したい。

(黒川 伸一)